

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！

# 「営業への転勤」要員センター（過員攻撃）を粉碎す

## 当局、「頭初提案」を全面撤回し、 新たな「譲歩修正案」を再提案(8/14)

\*\*\*\*\*

全ての組合員の皆さん、とりわけ当該の検修の仲間の皆さん、職場の断固たる闘いと結合したこの間のき然とした闘いの貫徹によって、遂にわれわれは、七月十九日に当局が提案してきていた不当な「過員対策」攻撃である『検修係の営業への転勤』『要員センター構想』攻撃を実力で粉碎するという重大な勝利の突破口をきりひらきました。動労千葉のゆるぎない組織力と戦闘力、職場の仲間の激しい怒り、団交における百パーセント正当な要求の対置等の全員一丸となった闘いが当局を追いつめ、八月十四日の団体交渉の席上、当局は遂に「七月十九日の頭初提案」を全面撤回し、大幅に譲歩修正した「再提案」を行わざるをえなくなりました。われわれは、この勝利の教訓をしっかりとふみ固め、さらに一寸の手もゆるめることなく現場の闘いと団体交渉をさらに強化し、最終的要求獲得まで闘いぬいていこうではありませんか。

### 動労千葉の要求（「逆提案」）の 正当性を認めた当局 ――交渉の経過について――

周知の通り、七月十九日の当局の頭初提案は、「検修業務についている者（予科生）について、一九八五年三月まで千葉、西船橋、錦糸町の要員センターに短期転勤させ、特別改札や混雑時の尻押し等の業務に従事させる」という許しがたい内容のものでした。

臨調Ⅱ行革をふりかざしての「新採停止」による「営業系統の大幅欠員」、あわせてこの間の無謀な合理化強行による「運転系統の過員」の発生という無謀・無能な当局施策の完全な失敗を、一方的に労働者に犠牲転嫁して「帳尻だけ合わせよう」という無責任な方針をどうして許せるでしょうか。

当該の仲間はもちろん、全組合員の怒りを結集し、動労千葉は第一回目の団体交渉の席上、当局のデータメキまわりない経営方針を厳しく追及すると同時に、現実の要員実情にふまえての長期的展望をみすえた労働者の側からの要求をつきつけて交渉をつづけてきました。

すなわち、「『転勤』『要員センター』等は断じて認めない」。「営業系統の欠員が充足されるまでの間、総武快速線・緩行線の車掌業務を列車掛（予科生）に移管せよ」との要求Ⅱ逆提案です。

「転勤」「要員センター」構想を撤回  
――当局、新たな「譲歩修正案」を  
提案（8/14）――

このあまりにも正当的を射たわれわれの要求と提案に対して何も反論できなくなった当局は、われわれの主張の正しさを認めざるを得なくなり、

八月十四日の団体交渉において遂に、「転勤」および「要員センター」の構想を全面撤回し、あらためて「助勤扱いとする」等の譲歩修正案を出してきました。

- 八月十四日に示された修正提案は次の通りです。
- (1) 運転系統から営業系統への要員運用について「助勤」とする。
  - (2) 助勤箇所は、通勤輸送対策業務のある駅。対象者
  - (3) 検修業務等に就いている者。
  - (4) 業務内容  
一定区域内各駅の通勤輸送対策業務に従事する。
  - (5) 勤務形態  
日勤勤務及び一交勤務とする。
  - (6) 教育  
配属前に一定の教育を行う。

勝利の地平をふみしめ、「業務移管」等、さらに闘いを強化しよう

われわれの全員の決起は、当局の理不尽な「過員」攻撃を重要なポイントでひとまずうち破り勝利しました。しかし、臨調Ⅱ行革をタテとし、動労「本部」革マルを手先につかっただけの当局の悪質な攻撃の基本姿勢は変わっていないばかりか、今後ますます強まっていくことは必至の情勢にあります。今回の勝利の教訓をしっかりと全員のものとし、一時もたまたたかいの手をゆるめることなく、さらに闘いを強化し、残る「業務移管Ⅱ要員展望」などの課題実現のために前進していこうではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！